

おおさき

発行日：令和 4 年 2 月発行

発行者：宮城県看護協会大崎支部

編集者：宮城県看護協会 大崎支部 広報委員会

大崎支部長あいさつ

遠山 優子

年明けと共に新型コロナウイルスの感染が再び猛威を振るっています。オミクロン株の感染力の強さは現場レベルでも痛切に感じているところです。そのような中、地域住民の医療と生活を守るため、日々奮闘されている看護職の皆様へ心より感謝いたします。

今年度の支部活動も限られたものになりましたが、「災害看護」をテーマにした研修会は、参加された皆様より大変好評をいただきました。今年もコロナ感染状況を注視しながら研修会や情報交換会等を実施し、可能な方法で交流、連携を図っていきたくて思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

春の足音はもう少し先と思われます。私達看護職も自らの健康管理に気をつけ、この寒い季節を乗り切っていきたいと思ひます。

大崎支部研修会開催

2021.10.23(土)



令和 3 年 10 月 23 日(土)に大崎訪問看護ステーションの会議室において、大崎市民病院日本 DMAT 隊員森川健稔氏、日本 DMAT 隊員・災害支援ナース高橋靖織氏をお招きして「災害看護について」をテーマに研修会が開催されました。当日は大崎管内の病院やクリニック・老人保健施設など 32 名の方が参加されました。

講義では、災害看護の歴史と定義・災害の分類と災害サイクル・DMAT 看護師の役割と災害支援ナースの役割について、またトリアージに関しては「スタート法」や実際にトリアージタグに記入し使用方法を学ぶことが出来ました。派遣実働の様子では、令和元年台風 19 号での吉田川の決壊に伴う活動や、今年 1 月に発生した東北自動車道多重衝突事故への対応を実際の現場の写真をまじえてお話いただきました。

世界的に見ても日本を含むアジア圏は災害発生件数が多く、災害は常に進化を遂げているとの事でした。災害時の限られた医療(人的・物的)資源の中で最大限の命を救うために、誰がどのような立場になっても行動が出来る災害対策マニュアルの整備が不可欠であるとの話があり、所属施設や個人でどこまで整備されているか確認する必要があると思われました。

今回は短い時間で、災害看護についての情報や知識を教えていただきました。いつ発生するか分からない災害に対して、患者さんや被災者、自分自身や家族・友人など周りの大切な人の命を守るためにも、平穏な今から備え・意識しておく事が重要であると改めて考えさせられる研修でした。



コロナ後遺症について

全国でコロナウイルスによる感染が拡がり、今や「第6波」の渦中にあります。オミクロン株は従来株に比べて感染力が非常に強く、今後も感染拡大が懸念されます。これまで以上に、基本的な感染防止対策を徹底していきましょう。

今回コロナ感染症患者の後遺症について、入退院調整・診療に関わっている大崎市民病院・呼吸器内科の井草医師に症例の一部を伺うことができました。後遺症でこれまでとは異なる日常生活を送らざるを得ない方がいることを改めて知る機会になりました。

【症例】

20代女性 母子ともに感染し入院治療したが特に問題なく退院。
しかし退院後から味覚異常と倦怠感が強く仕事に出られない日が続き、
結果的には2か月程度休職状態となりました。
現在は回復方向に向かっていますが、やはりコロナ感染前とは調子が
違うとのことでした



他にも何名か診察しましたが、1~2ヶ月程度で回復する方や
半年近く後遺症の症状が残る方と、かなり差がある印象です。
味覚障害や頭痛など、身体的な異常を持続する方もいますが
倦怠感や精神的な症状の長引く方も散見されます。
精神的なカウンセリング等、多角的なフォローが必要であると思いました。



大崎支部役員委員会開催 2022.1.13(木)



令和4年1月13日(木)「令和3年度宮城県看護協会大崎支部第5回役員委員会」が大崎訪問看護ステーションで開催されました。

今回は各委員からの事業進捗状況報告や次年度に向けての課題や予定などが話し合われました。

来年度の新型コロナウイルスの状況がわかりませんが、今後も支部の皆様へ広報誌を通して、情報提供・情報共有をしていきたいと思っております。



卒業生へ花束を差し上げます

大崎市医師会附属高等看護学校の令和3年度卒業式が、令和4年3月4日(金)に行われる予定です。今年も新型コロナウイルス対応のため、最小限の参加者で行われる予定です。宮城県看護協会大崎支部から、人数分の花束を贈ります。卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。これからのご活躍を願っております。

編集後記

令和3年度も新型コロナウイルスの影響で研修会以外の支部活動がほとんどできませんでした。来年度こそは世界的にコロナ禍が落ち着き、安心して仕事や生活が送れるよう願うばかりです。